

秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科修士課程
アセスメント・ポリシー（学修成果の評価方針）

本研究科は、以下の指針をもとに学生が修得した知識、技能ならびに思考力、表現力、社会実践力、領域複合能力を多面的かつ総合的に評価します。

1 評価の内容

複合芸術科目（複合芸術論、複合芸術応用論（実践）、複合芸術応用論（理論））では、知識とその応用力を評価します。複合芸術実践科目（複合芸術演習、複合芸術実習）では、グループワークおよび社会実践における協働、領域の横断・複合、企画、ディレクション等の力を、複合芸術科目で修得した知識の活用と各自の研究の社会的意義の洞察の点から評価の対象とします。制作技術演習科目（制作技術研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）では技術と思考の力を評価します。特別研究科目（特別研究Ⅰ・Ⅱ）では、これらを総合し、研究内容の深化と展開について評価します。

2 評価の方法

知識とその応用力に関しては、課題レポートおよび口頭発表により評価します。協働、領域複合、企画、ディレクション等の力は授業における口頭発表、成果報告書および実践の具体的成果（展覧会、アートプロジェクト、製品やプログラムの開発、公共型イベント、地域計画、事業企画等）により評価します。技術と思考の力は実技・作品により評価します。研究内容の深化と展開は、研究概要書、口頭発表、最終研究成果（学位審査に提出された論文／作品・活動および研究成果報告書）により評価します。

なお、オムニバス授業や共同授業の形式を採る授業（複合芸術科目、複合芸術実践科目）における成績評価は、授業担当教員の判定で行います。個別指導授業（制作技術演習科目、特別研究科目）においては、指導担当教員により成績評価が行われます。

3 評価の基準

科目の成績は、可能な限り達成度を数値化して評価し、次に示す「秀、優、良、可、不可」の評語で評価します。

評価と評点、G P、評価の基準			
評価	評点（100点）	G P（グレードポイント）	評価の基準
秀	90点以上	4.0	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている
優	80～89点	3.0	基本的な目標を十分に達成している
良	70～79点	2.0	基本的な目標を達成している
可	60～69点	1.0	基本的な目標を最低限度達成している
不可	60点未満	0	基本的な目標を達成していない